

科目名	生涯発達心理学						
Course Name	Life-Span Developmental Psychology						
年次	2年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	秋山真奈美						
連絡先(質問等)	講義棟3階研究室かメールで対応。オフィスアワーは火・土・授業・会議時間を除くものとする。						
必修/選択	選択(保育士課程選択必修)						
関連 DP	DP2						
授業の概要と到達目標	<p>生涯発達するということは、生涯、学習を続ける、変化をし続けるということである。本講義では、心理学の知見を用いて、受講者諸君が生涯に亘りその意識を持ち続けるための提言をしていく。</p> <p>従って到達目標としては、</p> <p>①自分のライフコースをイメージし、自分が望む人生を築き上げるためには、どんな活動や資源が必要であるかを挙げられるようになる。</p> <p>②将来的に生涯学習支援に携わる者として、その概念・理念を学び、実際的な支援手段を使用できるようになる。</p> <p>③個人的次元だけでなく、公共的・社会的次元で、生涯学習支援を立案できるようになる。</p>						
授業の方法	主に講義形式で行うが、しばしばアクティヴ・ラーニングを主眼としたワークやディスカッションも挿入される。期末考査はレポート提出とペーパーテストで行う。						
学習成果	L01	①自己の生涯発達・生涯学習の在り方を想像し、建設的計画を立て(あるいは修正し)、それを言語化できる。 ②自己および他者の思考を整理する技法を身につけることができる。					
	L02	他者の生涯学習支援に関する知識と心構えを作り、それを言語化できる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	小レポートのみ、添削の上返却する。課題としてのフィードバックの機会はそれくらいだが、日頃より積極的な質問を歓迎する。						
教科書/参考図書	教科書は特に使用しないが、参考書として「子ども家庭支援の心理学」本郷一夫・神谷哲司[編](建帛社)を熟読のこと(他教科で購入済み)。						
履修上の留意点やルール等	私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。小レポート課題は原則として翌週提出すること。事前・事後学習時間の目安は各回 180 分相当とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	他者の話真剣に耳を傾け、また、積極的にディスカッション・グループワークに参加し、講義や発表への疑問については臆さず質問すること。	20			
レポート/作品	生涯学習に関し、個人として、保育者として、どのように実現を図るか、将来を見据えてレポートすること(総合:30%)。この他に、ディスカッションやワークに関する小レポート課題(計30%)を課す。	30	30		
発表					
小テスト					
試験	多問型と記述型を組み合わせた期末試験を実施する(ノート持ち込み可)。		20		

佐野日本大学短期大学 2020 年度シラバス

その他					
合 計		50	50		

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション:授業の方法と計画の説明 生涯発達、生涯学習とは何か
	事前・事後学習	事後学習と次回事前学習を兼ね、人生 100 年時代のキャリアマップを作成する。
2	授業内容	生涯学習の内容と方法 学校教育と生涯学習 キャリア教育の目指すもの
	事前・事後学習	現人生設計にアクシデントが発生した場合のセカンドプランを作成する。
3	授業内容	標準的人生とは存在するのか ジェンダー・アイデンティティとキャリア発達 ワークライフバランスを考える
	事前・事後学習	身近なジェンダーギャップを見つけ、どういふあり方が好ましいかを考える。
4	授業内容	生涯学習の支援と課題 学習社会の共同性 まちづくりとひとづくり
	事前・事後学習	生涯学習を支援する立場から、有効な企画を考える。
5	授業内容	心理学を生涯学習支援に活用する:交流分析(1)理論編
	事前・事後学習	授業内でレクチャーしたエゴグラムを完成させる。
6	授業内容	心理学を生涯学習支援に活用する:交流分析(2)実践編 [小レポート①]
	事前・事後学習	エゴグラムの結果を基に、自他の交流のあり方を見返し、小レポートを作成する。
7	授業内容	心理学を生涯学習支援に活用する:アドラー心理学(1)認知の理解と変容 共同体感覚
	事前・事後学習	アドラー理論を参考にして、自分の日常生活のあり方を省みる。
8	授業内容	心理学を生涯学習支援に活用する:アドラー心理学(2)目的論と勇気づけ ライフスタイル分析
	事前・事後学習	アドラー理論を参考にして、自分の日常生活のあり方を省みる。
9	授業内容	心理学を生涯学習支援に活用する:アドラー心理学(3)実践編 [小レポート②]
	事前・事後学習	ワークの結果を参照し、また第7・8回の事後学習の成果を用いて小レポートを作成する。
10	授業内容	心理学を生涯学習支援に活用する:コーチングとファシリテーション(1)理論編
	事前・事後学習	コーチ、ファシリテーターとしての自分の資質を検証する。
11	授業内容	心理学を生涯学習支援に活用する:コーチングとファシリテーション(2)実践編
	事前・事後学習	コーチ、ファシリテーターとして、日常の話し合いの場を主導してみる(第15回終了時まで)に試み、その考察は総合レポートに反映させておくこと。
12	授業内容	偉人の人生から学ぶ 親しい人の人生から学ぶ 伝記的研究法・縦断的研究法の活かし方
	事前・事後学習	事前学習として、親しい人の人生あるいは偉人の伝記を事例としてまとめる。(→授業内で報告する。)
13	授業内容	多文化共生社会における支援:多文化家庭の増加 多文化保育・教育の歴史
	事前・事後学習	事前学習として、これまでの実習で遇った多文化家庭の事例をまとめる。(→授業内で報告する。)
14	授業内容	多文化共生社会における支援:多文化保育の理解と実践
	事前・事後学習	多文化保育についてまとめると共に総合レポートを作成する。
15	授業内容	まとめ:自分の人生をどう構築するか、他者の人生をどう支えるか 転機の意味 [総合レポート提出]
	事前・事後学習	これまでの授業内容をまとめ直し、期末考査に臨む。